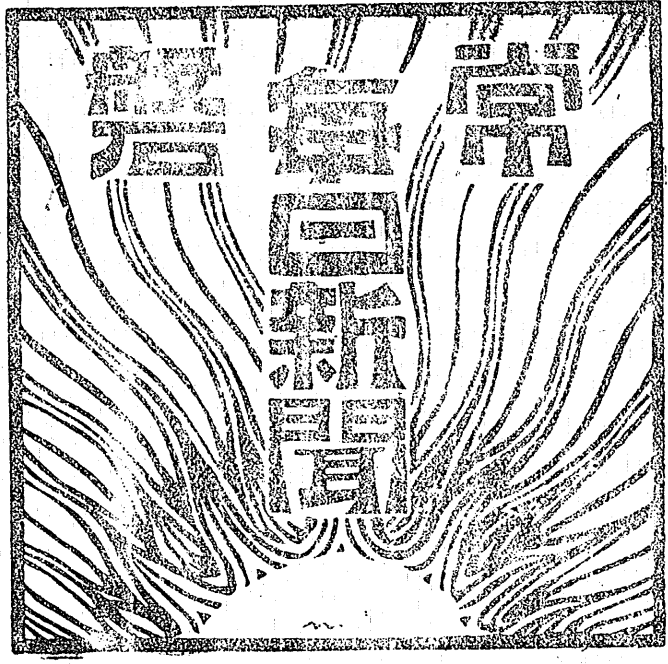


日刊 印刷 兼編輯人 川崎文治 本社下同番地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日八十月十

定價 一部金貳錢 一月拾錢 三月三拾錢 半年六拾錢 一年一圓 廣告 五字十二行 一日一元 五日五元 十日十元 二十日二十元 印刷 每日印刷 印刷所 常盤毎日印刷所 電話六三〇番

人を愛する政治 (四)
 司法大臣 原 嘉道
 古來、犯罪を病氣に譬へ、犯罪人を病人に譬へる説がある。病氣と犯罪とは固より異なつたものであるが、其取扱方には餘程似たものがある。今少しく詳細に比較すれば、一家に病人が生ずれば其家族全體の氣分を闇くする。それと同様に社會に犯罪の存することは社會一般の人心を不安ならしめ、不快ならしむるのである。故に犯罪人に對し世人が恐怖し、憎惡する感情を

抱くは決して無理からぬことである。病人に對しては一日も早く其恢復を祈る如く、犯罪人に對しても速かに犯罪心が匡正せられて、人並に法律的、道德的生活に復歸することを望むも亦た人情の自然ではないか。さて病後の人は恢復したとはいへ、猶相當の攝生をなさねば動もすれば病態に歸ることがある。刑除の人は假令犯罪心が匡正せられ、本人も悔悟反省するに至つても、刑除の環境——社會の取扱如何によりて復び過去の不良生活に戻るであらうことは、何人も容易に察知のできるものである。か

平町細屋町(縣社通) 美味 評判 **イウキ食堂** オの部話電四六〇番

梅毒 淋病
 皮膚病 專門婦人病
 平町南 松村病院 電話七〇一

キング水彩繪具 王様クレヨン ガリバー テンペラ繪具 ゴンドラ バステル

マル柴田書店 平町四丁目 電話二三四番

花柳科 專門 **木村外科醫院**
 入院自炊の便あり 平町五丁目橋際 電話三〇九番

平町細屋町 **吉田眼科醫院**

祝五週年

小田炭礦株式會社 礦業所
 古河炭礦 好間礦業所

磐城平驛前 丸市屋 電話三七一番
 平町田町 牛料理 石川享 電話四三番

永久不變 美術引伸 齋藤寫眞館 (電話呼三五九番)

親子 天井 平町二丁目 みたいや 電話三一九番

念記典大御 全商工博覽會に於て 銀牌受領したることを

期節向御集會用折詰 御祝儀用折詰 鯉節籠入折詰 御土産産薩慶場籠入 大々の勉強致します……是非御用命仰付下さい

平町二丁目 (電話三五番) **藤市蒲鉾店** 遠藤市松

十月廿八、廿九日の二日間 (午後八時半より) 東京の二越來る 平町、住吉屋本店にて出張販賣

御名、小紋、大島、銘仙、帯地、半衿、モスリン等新柄呉服類一設 子供服、タオル、シャツ、靴下、石鹸、傘 下駄、其他格安實用品 御大禮記念として草履 記念袋、風呂敷等陳列

東京市 **三越** 日本橋

秋晴れの昨日 町民體育大會

優勝旗は田町分團獲得し
優勝カップは新川町分團

▽……… 昨年の記録を破る

優勝者の氏名

平青年團主催第二回町民體育大會は秋晴れの昨十七日、神嘗祭をとり午前九時より警中グラウンドに於て開催された、各町すぐり抜き選手の勢揃への事とて意氣天を衝く概を示し

應援團

の面々は手に應援旗を握つて固唾をのむ、先づ郡聯合青年團評議員藤田榮助氏の總指揮に依り正副團長本團旗を圍んで先頭に起ち樂隊夫れに續き昨年の優勝團白銀分團の選手以下各分團選手夫々整列、樂の音に

歩調を

合して堂々たる入場式を行へ、白銀分團より優勝旗及び優勝カップを返還し君ヶ代を合唱して會長伏見町長開會の辭を朗讀あり

指揮に

依り合同体操を終り愈よ百米の豫選を皮切りに夫々壯烈な運動競技は開始され昨年よりも優秀なレコードを以つて順序を進め採點の結果陸上競技

- 一等十六丁目 日本 幸平
- 二等 新川町 堀 賢治
- 三等 南町 小林 與一
- 四等 鍛冶町 高根澤秀雄
- 五等 白銀町 鈴木 勇男

- 四等 田町 大畑 久吉
- 五等 四丁目 加藤 勇吉

- 一等 鍛冶町 折笠 博茂
- 二等 南町 小林 與一
- 三等 田町 石坂 一雄
- 四等 十六區 佐久間芳夫
- 五等 白銀町 花澤 輝一

- 一等 田町 左藤 一男
- 二等 六丁目 松本辰雄
- 三等 鍛冶町 小野寺春雄
- 四等 新川町 深谷一三郎
- 五等 十七丁目 佐藤幸太郎

- 一等 田町 猪狩 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 十七丁目 金成 章
- 二等 十六丁目 正木廣造
- 三等 城 山 谷 島 音 次 郎
- 四等 鍛冶町 竹俣 政記
- 五等 鍛冶町 鈴木 鐵三

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 五丁目 安藤利三郎
- 二等 新川町 伊澤 三郎
- 三等 鍛冶町 山野澤久利

- 一等 鍛冶町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

- 一等 新川町 水竹 仁
- 二等 新川町 佐々木藏六
- 三等 四丁目 片寄三郎
- 四等 田町 鈴木 充雄
- 五等 鍛冶町 桐原 英純

- 一等 田町 折笠 博茂
- 二等 鍛冶町 折笠 博茂
- 三等 白銀町 花澤 輝一
- 四等 新川町 秋間平八郎
- 五等 新川町 松崎純一郎

(二面から續く)
い、君こそ架橋分流に決した知事の調停案に同意を表して置きながら、今日になつて幽霊の出戻りの如く架橋分流がいけない等と騒ぎ立てる事は甚だ敷き變節改論ではないか、君は此の裏切つた行動の申譯けに會社の株主としては同意したが町民としては不同意である

吉田五平君の分立案に對し「議員としては反對だが同志として賛成する」と尤もらしく述べ立てた、此の如く狗變極りなき二重人格の常習者であるが故に甚だ迷惑に存するのである、其他に君はいく加減な聞き囁りを恰も事實の如く吹聴する例へば白井博之氏が水槽分水を可として仲裁せんとした際僕が其の仲裁を阻止したのだ、伊藤知事に對して水利権を取消せば比佐が落選して政友會が勝つ等と陳情した等と全くの嘘萬八を誠しやかに書いて居る、僕は白井氏の仲裁を斷んだ覚えもなければ須賀川の虎屋

旅館に知事を訪ねた事もない、何故君は斯ふ云ふ嘘を云ふのだ、君は尙ほ大森氏が架橋分流を自然流下と云つて居るといふ、僕としては大森氏が斯く云はるゝかどうかは耳にしないが、云はれたとしても間違ひはないと思ふ何故となれば自然流下とは施設物の如何を問はず水自體の動きに依り目的個所に流動するのをいふのであらうからである、然らば架橋分流を自然流下といふに何んの不思議がある吾人は平町の水道と營利會社の間に水争への紛争の惹起を憶るゝが故に水槽分水を否とと比較的に此の

厄を蒙らずと濟む自然流下の架橋分流を可とし水道の保全を期さうとするのである。然れ共架橋分流になさば、發電所は五十尺の落差が減る、是れは痛い處であらう、だからどうせ君が二重人格の常習者であるなればいつそ正直に架橋分流に對して「町民としては賛成だが株主として反對する」と斯ふ改めて貰ひ度いのが僕の注文だ、政黨政派でどうの斯ふの……、是れは既に政黨政派の問題でない事が世間には眼のある以上よく判つて居る事であるからお答へは申す迄もあるまいたゞ殊更らに政黨政派の間

川崎本社長の
ラヂオ題目
十九廿の兩日
既報川崎本社長の十九廿の兩日仙台放送局よりの放送題目は左記の如くである
▼十九日(午前十時家庭講座) 童話を選び場合の用意(午後六時子供の時) 童話まる木船
▼廿日(午後六時子供の時) 獨唱と齊唱平第二小學校生徒、童話花子さんのノンキナトウサン

水道問題協定に關し
野崎滿藏君に答ふ
川崎 文治
今朝僕の友人が僕に示した常警海岸新報に依れば、君は僕の新聞に先般報導された大瀧發電所問題の協定條件に關して公開状を掲げて居る、君は僕の報導記事を反駁して書いた積りなのであらうが、其の反駁の公開状たるや架橋分流と水槽分水の是非に關する問題の核心には少しも觸れて居ないばかりか、僕及び僕以外の人々の人身攻撃に脱線し終つて居る。以前の君ではな

いのだ、少しは自己反省あらうか、君は僕の報導記事を反駁して書いた積りなのであらうが、其の反駁の公開状たるや架橋分流と水槽分水の是非に關する問題の核心には少しも觸れて居ないばかりか、僕及び僕以外の人々の人身攻撃に脱線し終つて居る。以前の君ではな

「川崎君の新聞或はパンフレットを以て發電會社と平水道とは兩立せないと反對意見を書立て、居つたがもう忘れてしまふたのか、夫れとも自分の非を悟り意見を變更したのか」
と云つて居る、平町水道取水口の上流に取水口を設け然も水道取水口の下流に放流する發電會社と水道の利益は一致する筈がない、勿論兩立しない、兩立しなければこそ、水槽分水或ひは架橋分流が論議さるるに至るのではないか故に「兩立せず」といふ意見は今日と雖も變りがない(三面に續く)